

JOC ジュニアオリンピックカップ
令和7年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会長野県予選会
兼 第80回国民スポーツ大会柔道競技長野県選手選考会（少年男女）
実施要項（計量訂正）

1. 主 催 長野県柔道連盟
2. 共 催 財団法人長野県体育協会
3. 日 時 2025年4月20日（日） 8:00 開場 9:30 開会式
4. 会 場 小諸武道館 小諸市乙 1189-1
5. 競技方法
 - (1) 男女各7階級にて行う
男子 ・60 kg級 ・66 kg級 ・73 kg級 ・81 kg級 ・90 kg級 ・100 kg級 ・100 kg超級
女子 ・48 kg級 ・52 kg級 ・57 kg級 ・63 kg級 ・70 kg級 ・78 kg級 ・78 kg超級
 - (2) トーナメント方式で行う。但し、人数によってはリーグ戦もありうる。

6. 出場資格（昨年と同様）

【男子】

- (1) 日本国籍を有し、長野県柔道連盟を通して全日本柔道連盟に登録している者。
- (2) 2005年1月1日以降、2010年12月31日以前の出生者。
(2025年中に15歳～20歳になる者。)
- (3) 都道府県予選の出場は1地区に限る。
- (4) 令和6年度長野県高等学校新人体育大会において各階級ベスト8進出者。また令和6年度全国高等学校柔道選手権大会長野県大会の60 kg級～81 kg級ベスト8入賞者及び無差別級ベスト16入賞者とし、当該大会への出場階級は選択できることとする。
- (5) 各地区高校生推薦者4名。
※推薦者4名については各地区にて精査調整しお申込みをお願いします。
- (6) 前年度の県中学総体決勝進出者2名。
- (7) (2)を満たす、長野県中学校体育連盟柔道専門委員長が推薦する各階級推薦者1名。
- (8) (1)～(3)を満たす、各地区からの社会人、大学生、専門学生の出場者数の制限はしない。(オープン参加)
- (9) 推薦出場枠として、前年度各階級優勝者で上記(1)・(2)の条件を満たす者は前年度階級から出場できる。
また、各階級上下1階級の出場階級も選択できるがシード権は消滅する。

【女子】

男子の出場資格(1)～(3)まで同様とする。

- (4) 以降については、各地区からの出場者数は制限しない。(オープン参加)

7. 審判規定（変更の可能性もありうる）

- ・最新の国際柔道試合審判規定によって行う。(当日の申し合わせ事項で追加あり)
- ・試合時間は男子、女子ともに4分間。
- ・優勢勝ちの判定基準は「有効」とする。得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
- ・ルール等において疑義が生じた場合は、当日の審判監督会議において決定する。

8. 服 装

- (1) 全日本柔道連盟柔道着規定に適合の柔道着を使用すること。柔道着は白色を使用する。
- (2) 選手は背部に下記の要領でゼッケンを縫い付けること。

ア 布地は白色（さらし、太綾）とする。

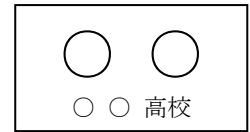
イ サイズは横 30 cm～35 cm、縦 25 cm～30 cmとする。

ウ 苗字(姓)は上側 2/3、所属名は下側 1/3 にゴシック又は楷書で記載する。

男子は黒色、女子は朱色で記載する。※広告の入った柔道着・ゼッケンの使用は不可。

エ 縫い付けの場所は、後襟から 5 cm～10 cm 下部とし、対角線にも強い糸で縫い付ける。

※但し、進学等で年度当初柔道着が間に合わない場合は、前所属のものでも構わない。



9. 軽 量 4月19日(前日) 17:00～17:30(県立武道館)

4月20日(当日) 8:00～8:30(小諸武道館)

※北信越・全国に合わせて前日に行いますが、当日でも可とします。

前日・当日のどちらかで計量をパスしてください。

10. 審判会議 午前9時00分より行う。

11. 申込み方法

所定の用紙に入力うえ、メールにてお申し込み下さい。

(1) 申込先 king_supplement@yahoo.co.jp

(2) 切 令和6年4月14日(月) ※メール限定

(3) 参加料 2,000円(大会当日に受付へ納付してください)

(申込み用紙は長野県柔道連盟 HP よりダウンロードをお願いします)

12. 上位大会への出場

- ・各階級の優勝者については、令和6年7月7日(日)に長野県立武道館にて開催される北信越大会への出場権を与える。

13. その他、以下の点に留意すること。

- (1) 試合中の負傷については応急手当のみ行い、その他一切の責任は負わない。
- (2) 脳震盪対応について(ジュニア以下の大会にて規定)下記の条項を理解・確認をし、参加申し込みをもって了承したものとします。

ア 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。

イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは認めない。

(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)

ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(3) 皮膚真菌症について

皮膚真菌症(トリコフィトン・トンズランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、若しくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において的確な治療を行う。

もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、原則として大会への出場を禁止する。

(ただし、2週間以内の治療証明書がある場合は、出場を認める。)